



令和4年度 南あわじ市の 教育方針

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会



令和4年度
重点取組事項

- (1) コアカリキュラムを生かした資質・能力の育成
- (2) 「読解力」向上に向けた言語活動の充実と読書活動の推進
- (3) 児童生徒がICTを適切に活用する学習活動の推進
- (4) 防災ジュニアリーダーを核とした実践的な防災教育の推進

(1) コアカリキュラム

世界に誇る伝統芸能である淡路人形浄瑠璃を題材とした「南あわじっ子につけたい力」[※]の資質・能力育成を目指す小中学校9年間のカリキュラムである。何を学ぶか、どのように学ぶのかを子ども達とルーブリック評価表で目標を共有し、淡路人形浄瑠璃の歴史や背景や魅力を知り、まとめ伝える活動を校内だけでなく、社会に働きかけ提案できる力を育成する。

- ・各学年カリキュラムの実施・検証・改善を行い、ブラッシュアップを通じて教職員研修の充実を図る。
- ・タブレット端末を効果的に活用する学びの場とし、教科の学習の充実発展を図る。

(2) 「読解力」の向上、読書習慣づくり

学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成を図るために、言語環境の整備や言語活動の充実を図るとともに、読書活動の充実による習慣づくりを行い、「読解力」の向上につなげる。

- ・すべての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図る。
- ・朝読書や絵本の読み聞かせ等を通して「読書する楽しさ」の醸成と習慣づくりを図る。
- ・読書活動推進員が市立図書館と学校との連携を図り、子どもたちの読書活動が充実するよう支援する。

(3) GIGAスクール構想事業

GIGAスクール構想は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別に最適化された学びを提供する構想であり、1人1台のタブレット端末を使用し、論理的思考力や情報活用能力の向上を図る。また、提示装置等のICT機器を活用し双方向型の授業革新を推進し、質の高い教育の実現を目指す。

- ・様々な教育活動においてタブレット等のICT機器の効果的な活用を工夫し、主体的で対話的な学びの充実を図る。
- ・ネットトラブル防止等に関する情報モラルの向上を目指す。

(4) 防災ジュニアリーダー養成事業

小中学生を対象に参加者を募り、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動を継続する。また、中学校間でのパートナーシップ協定の締結、舞子高校防災出前授業などを実施し、助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育み、人としての生き方・あり方を考える防災教育を推進する。

- ・合宿やボランティア活動で、リーダーとして行動する機会を提供することで、主体的に防災に関わるジュニアリーダーを育成する。
- ・大学生や大学院生、高校生、小中学生との交流を通して、防災を多面的に捉え、自ら未来を拓いていくための防災力の育成を図る。

基本方針1 施策体系表

| 基本的方向 | 重点目標 | 主な取組 |
|-------------------|------------------------|--|
| (1) 「確かな学力」の育成 | ア 学力向上の推進 | ① 「読解力」の向上 ● ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ★ ④ 読書習慣づくり ● |
| | イ 国際理解を深める教育の推進 | ① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJI」の活用 |
| | ウ 情報活用能力の育成 | ① プログラミング教育 ② GIGAスクール構想事業 ● |
| (2) 「豊かな心」の育成 | ア 道徳教育・人権教育の推進 | ① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト ② 兵庫版道徳教育副読本の活用 |
| | イ ふるさと意識を醸成する教育の推進 | ① 副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫 魅力発見！」の活用 |
| | ウ 兵庫型「体験教育」の推進 | ① 環境体験学習 ② 自然学校 |
| (3) 「健やかな体」の育成 | ア 体力・運動能力向上の推進 | ① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業 |
| | イ 食育の推進 | ① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ |
| | ウ 健康教育・安全教育の推進 | ① 避難訓練 ② 着衣水泳 |
| (4) 特別支援教育の推進 | ア 連続性のある多様な学びの充実（縦の連携） | ① 個別の教育支援計画 ② 授業のユニバーサルデザイン化 ③ 中高連携シートの活用 |
| | イ 一貫性のある支援体制の構築（横の連携） | ① 関係機関との連携 ② あわじ教育相談 |
| (5) 教育のキャリア推進 | ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進 | ① キャリアノート等の活用 ② 幼こ保・小・中・高の連携 ③ 小中一貫教育 |
| | イ 社会に触れる機会の充実 | ① トライやる・ウィーク ② 夢プロジェクト ● |
| (6) 幼児期の教育の充実 | ア 幼児期における教育の質の向上 | ① 遊びから学びに繋がる体験活動 ② 本との出会いの場の提供 ③ 職員の研修 |
| | イ 幼児期と児童期の円滑な接続 | ① 幼こ保小連絡協議会 ② 交流活動の充実 ③ 育児力の強化 |
| (7) 南あわじ市の防災教育の推進 | ア 防災教育の充実 | ① 防災ジュニアリーダー養成事業 ★ ② 防災出前授業 ③ 自然学校「防災学習」 |
| | イ 学校防災体制の充実 | ① 学校防災マニュアルの作成 ② 避難所運営部会 |

★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和4年度重点取組

※3つの資質・能力

- 互いの弱みを認め合い、チームとして高め合う力
- 周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力
- 課題を明確に把握し見通しをもって主体的に取り組む力



令和4年度
重点取組事項

- (1) スクールチャレンジ事業の活用による学校の特色づくり
- (2) いじめの積極的認知と組織的対応の徹底
- (3) 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進

(1) スクールチャレンジ事業の活用

新学習指導要領の具現化、学力向上、特別支援教育への対応、いじめ・不登校問題など、各校で異なる様々な課題や特色に応じて主体的に独自の切り口で課題解決に取り組んだり、各校の独自の教育活動や研究の成果をさらに発展させたりすることで、より特色のある学校づくりを推進する。

- ・自校の課題を明確化し、共通理解を図る。
- ・テーマに基づいて焦点化を図り、課題解決や特色化につなげる。
- ・ルーブリック評価等の手法を活用し、事業成果の検証を行い、指導と評価の一体化を図る。

(2) いじめ防止・解消

いじめ防止では、教職員からの指導に加え、子どもたちの側からいじめと向き合い行動することで、いじめを許さない集団づくり・学校づくりを目指す。教職員もいじめの定義を正しく理解し、未然防止、早期発見につながるよういじめの積極的認知に努める。また、いじめの「解消」を急ぐことなく組織的に十分な見守り等の支援を続ける。

<いじめの定義>

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

<いじめの解消の要件>

- ① いじめに係る行為が止んでいること（3カ月を目安とする）
- ② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

- ・アンケート調査や教育相談の実施等によりいじめの積極的認知に努める。
- ・「いじめ対応マニュアル」を活用して、未然防止、早期発見・早期対応、解消における組織的な対応や、研修会等により教職員の対応能力の向上を図る。
- ・学校・家庭・地域や関係機関が連携協力して、いじめ問題の克服に向けた取組を推進する。

(3) 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進

人権という普遍的文化の構築をめざし、人権に対する正しい理解を培い、日々の生活に生きて働く人権意識を育て、さまざまな場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようにするとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるよう人権教育の推進を図る。

- ・児童生徒の人権を守り育てる教育実践力の向上を図る。
- ・日常業務において、市民の人権を守る行動を徹底する。

基本方針2 施策体系表

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) 教職員の資
質・能力の
向上

ア 研修体制の充実

- ① 基本的な資質・能力向上のための研修
- ② 南あわじサテライト講座
- ③ スクールチャレンジ事業の活用 ★

イ 教職員の働き方改革の推進

- ① 教育用コンピュータ管理
- ② 教職員の勤務の適正化

(2) 学校の組織
強化

ア 管理職の育成

- ① 南あわじサテライト講座「学校経営講座」

イ いじめ等問題行動・不登校への対応

- ① いじめ防止・解消 ●
- ② 不登校児童生徒への支援の充実
- ③ 市小・中・高生徒指導連絡協議会

(3) 安全・安
心な教育
環境

ア 施設・設備の改修

- ① 大規模(長寿命化)改修工事
- ② 校舎等営繕工事

イ ICT等の整備

- ① 統合型校務支援システム

(4) 家庭と地域
と連携し
た教育の
推進

ア 家庭の教育力の向上

- ① 学力向上リーフレットの配布
- ② 家庭学習の手引き

イ 地域の教育力の向上

- ① 放課後児童健全育成事業
- ② 放課後子ども教室事業
- ③ サマースクール事業
- ④ 地域学校協働連携事業
- ⑤ 青少年育成センター事業

(5) 人権文化を
すすめる
まちづくり

ア 人権教育の推進

- ① 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進 ●
- ② 人権学習会、研修会の開催
- ③ 市人権教育研究協議会との連携

イ 人権を身近な課題とするための
啓発活動

- ① 啓発冊子「気づきタウン」の活用
- ② 人権啓発フェスティバル等の開催
- ③ インターネットモニタリング事業

★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和4年度重点取組



令和4年度
重点取組事項

- (1) アフタースクールの拡充と「まちの先生」の人材活用
- (2) スポーツや文化の本物の魅力にふれ、夢を育む機会の提供
- (3) 松帆銅鐸を生かした学習活動の推進と郷土愛の醸成

(1)アフタースクール事業

放課後の時間に、遊びを通じて自主性、積極性、コミュニケーション力等を身に付け、自ら考え判断して行動をすることができるように多種多様な体験活動を提供する。

体験活動の講師には、専門講師に加え、「まちの先生」といった地域で趣味・特技を生かしたい人、子どものかかわりに関心を持った人や企業等に参画をしてもらい、地域とともに大人も子どもも学び合う安心安全な放課後の居場所をつくる。

- ・7校区(新規2校区)での開設に加え、さらなる事業展開を図る。
- ・活動内容の広報に努め、アフタースクール事業の認知度を上げる。
- ・事業に協力をいただく体験活動講師(まちの先生)や企業を増やす。
- ・アンケートを実施して満足度調査、実態把握により改善を図る。
- ・スタッフの資質向上をはかるため、人材育成を強化する。



(2)夢プロジェクト

小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人を講師として招き、講演会等を開催してスポーツや文化の魅力や楽しさ、努力する大切さや友達の大切さなどを伝える。本物にふれる機会を提供することにより、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送れるようにする。

- ・小学校4校(倭文、阿万、沼島、広田)で実施する。
- ・中学校3校(西淡、南淡、沼島)で実施する。
- ・アンケートを実施して小中学生の思い等を把握し、事業の改善を図る。
- ・事業成果の周知を図り、認知度を高める。

(3)松帆銅鐸の調査研究、普及啓発

松帆銅鐸の研究結果や歴史的価値を広く伝え、各地区の史跡名勝・歴史遺産を活用し、子どもたちの知識と体験を組み合わせた多角的な学習活動に寄与するとともに、講演会・市民講座の充実を図り、郷土愛を育む。

- ・他の弥生時代の遺跡や青銅器出土地などと交流を行い、松帆銅鐸の調査研究結果をより深めていく。
- ・展覧会事業、鑄造体験、ワークショップ及びフィールドワークなどの実体験を背景に、松帆銅鐸を中心とする歴史遺産を活用し、想像力や思考力を養うことで子どもから大人まで年齢を問わず、特色ある南あわじ市の歴史を学び、多角的に興味関心を喚起する環境づくりに努める。

基本方針3 施策体系表

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) 主体的に生きるための学びと場の充実

ア 学びの充実

- ① アフタースクール事業 ★
- ② 夢プロジェクト ●
- ③ 淡路三原高等学校地域活動支援事業

イ 社会教育施設の充実

- ① 社会教育施設の整備
- ② 展覧会事業や関連事業の開催
- ③ 資料の保存、管理
- ④ 図書館資料の充実

(2) 伝統文化(芸術)の伝承と発展

ア 体験を通して学ぶ伝統文化(芸術)の伝承と発展

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興
- ③ 南あわじ音楽祭

イ 文化財の保存と活用

- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 地域に根ざした歴史体験活動の推進
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、普及啓発 ★

(3) スポーツに親しむ環境づくり

ア 生涯スポーツ等の推進

- ① 市民スポーツの振興
- ② 体育協会主催大会の開催

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

★：第3期南あわじ市教育振興基本計画の特色ある取組 ●：令和4年度重点取組



第3期南あわじ市教育振興基本計画

テーマ

学ぶ楽しさ日本一

～夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり～

めざす項目

本市は、第2次南あわじ市総合計画(平成29～38年度)の中で、まちづくりにおいては「人」がすべての中心であるとの考えのもと、「ひかり輝く人づくり」を柱の1つに位置付け、次世代を担う人材の育成を進めています。

それを受けて、本教育委員会では、令和2年度から5年間の第3期南あわじ市教育振興基本計画のテーマを『学ぶ楽しさ日本一』としました。そして、次のような「学ぶ楽しさ」を追求し、実感できる取組を学校・家庭・地域で推進していきます。

- ① 「わかる」「できる」楽しさ
- ② 困難なことにもチャレンジする楽しさ
- ③ 考え工夫し、想像する楽しさ
- ④ 仲間と協働してやりとげる楽しさ
- ⑤ ふるさとをよりよく知る楽しさ
- ⑥ 思いや考えを表現する楽しさ
- ⑦ 本物にふれる楽しさ
- ⑧ 夢や志を見つけ、社会に貢献する楽しさ

この「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指す取組では、「ほめること」を大切にすることで「自己肯定感」を高め、「読解力」を核にしながら、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力や創造力、やり抜く力など様々な資質・能力を向上させていきます。

それにより、本市の子どもたちが将来「なりたい自分になれる」ように、「夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり」を進めていきます。

3つの柱

- | | |
|-------|-------------------|
| 基本方針1 | 主体的な学びを深める教育の推進 |
| 基本方針2 | 安心して学ぶことができる環境の構築 |
| 基本方針3 | 生涯を通じて学び続ける地域の創生 |